

かねてより、本紙上でご報告してまいりました11月の行事が、下段の御案内の通りに決定致しました。なお、このほかに、6日には組織病理実習室の展示があります。こまた、8日の式典には、物故教職員、同窓会員の慰霊祭を行います。さらに、その後「私の見た母校の80年」と題し、今田見信氏の記念講演もあります。この期念に、同窓ごぞって水道橋に集まって意義ある盛大なお祭りにしたいものです。奮って御参集されることを期待しております。

東京歯科大学創立八十周年記念 並びに血脇守之助先生生誕百年 祭記念行事御案内

八十周年記念学会

第一日 十一月六日(金) 午前九時—午後五時 母校講堂

。一般講演

。特別講演「小児歯科の現状—今西孝博助教授(四時—五時)」

。宿題報告「歯周疾患における免疫学的研究」西村正雄助教授(十一時—十二時)

。東京歯科大学学会総会 一時—一時二十五分

。東京歯科大学学会評議員会 十二時—一時

第二日 十一月七日(土) 午前九時—十二時 第四教室

○シンポジウム

「最近における印象採得のすべて」

司会 金竹哲也教授 関根弘教授
講師 小平 崇講師(補綴) 腰原好講師(補綴) 薄上 隆男講師(補綴) 高橋一祐助教授(保存) 瀬端 正之助教授(矯正) 野口八九重助教授(理工) 今西孝博助教授(小児歯科)

八十周年記念並びに血脇先生生誕百年記念式典

日時 十一月八日(日) 午後一時—三時三十分

場所 母校講堂

。なお来会者には記念品として東京歯科大学パーナ—を配布を致します。

八十周年並びに血脇先生生誕百年記念祝賀会

日時 十一月八日(日) 午後五時より

場所 小石川 椿山荘 会費 三千元

。ご家族の同伴も歓迎します。式典終了後、椿山荘までの無料バスの用意があります。

血脇守之助先生遺品、遺墨展

期間 十一月六日より八日まで 場所 母校第一教室

高山紀齋先生記念碑建設

岡山県歯科医師会館敷地内に胸像を建設する予定である。完成除幕式は未定である。

血脇守之助先生謝恩碑整地整備

千葉県我孫子の現在地に十一月八日までに完成の予定である

御 通 知

第七十六回 東京歯科大学同窓会定時総会

日時 昭和四十五年十一月八日(日)

午前十時—十二時

場所 母校 第四教室

議案 一、昭和四十四年度 東京歯科大学同窓会経常部収支決算並びに財産目録の承認を求める件

二、昭和四十四年度 東京歯科大学同窓会特別会計収支決算の承認を求める件

叙勲者・受章者顕彰式

定時総会終了後と同じ場所で行ないます。

東京歯科大学同窓会評議員会

日時 昭和四十五年十一月七日(土)

午後一時—五時

場所 母校 第四教室

議案 一、昭和四十四年度 東京歯科大学同窓会経常部収支決算並びに財産目録の承認を求める件

二、昭和四十四年度 東京歯科大学同窓会特別会計収支決算の承認を求める件

三、昭和四十五年度 経常部補正予算の承認を求める件

四、昭和四十六年度 東京歯科大学同窓会事業計画案

五、昭和四十六年度 東京歯科大学同窓会経常部収支予算案

六、昭和四十六年度 東京歯科大学同窓会特別会計収支予算案

七、名誉会員推薦の件

八、叙勲者、受章者顕彰の件

その他

鹿島俊雄後援会全国役員会

日時 昭和四十五年十一月七日(土) 午後五時より、

同窓会評議員会終了後引き続き開催。

場所 母校 第四教室

評議員懇親会

十一月七日(土) 午後六時よりホテル後楽園に於いて開催します。

東京歯科大学創立八十周年記念並びに血協守之助先生生誕百年記念行事日程表

時間	9時	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8時	9時～5時
6日(金)	八十周年記念学会 一般講演 宿題報告 評議員会 総会 一般講演 特別講演 会場: 第3・第4教室												血協守之助先生遺墨展示 会場・第一教室
7日(土)	記念学会 (シンポジウム) 会場: 第4教室		休 憩	同窓会評議員会 会場: 第4教室				全国役員会(第四教室) 鹿島俊雄後援会		同窓会評議員 懇親会 会場: ホテル園 ホテ			
8日(日)	同窓会総会 叙勲者・受彰者 顕彰式 会場: 第4教室		休 憩	記念式典 会場: ホール			(バスの用意あり)		記念祝賀会 会場: 椿山荘				

祝賀協賛学生の集い

10月30日(金) 前夜祭一市川	10月31日(土) 展示一水道橋	11月2日(月) 学生の集い一共立講堂
11月3日(火) 展示一水道橋	11月4日(水) 運動会一市川	11月5日(木) 後夜祭一市川

9月10日 事出張 井上会長代理・齋藤理事	9月7日 臨時常任理事会 神奈川県支部総会	8月31日 四校会談	8月29日 小西憲作君葬儀安島理事会葬	8月29日 六歯科大学同窓連合懇親会(阿蘇)井上会長代理高木副会長岡・山崎の両理事出張	8月28日 鹿島後援会企画部幹事会開催	8月26日 高知県支部会員宛見舞状を発送した。	8月24日 長宛見舞状並びに報告書発送。	8月23日 台風10号被害地区支部し見舞電報を発信。	8月23日 黒崎博顧問葬儀安島理事会葬	8月23日 科)	8月23日 副会長・津島理事出張	8月21日 北海道連合支部総会林	8月18日 常任理事会	8月17日 長に見舞状並びに被害報告書発送	8月13日 一日入学山梨県歯科医師会
-----------------------------	-----------------------------	---------------	------------------------	--	------------------------	----------------------------	-------------------------	-------------------------------	------------------------	-------------	---------------------	---------------------	----------------	--------------------------	-----------------------

本部短信

9月12日 関東地区支部連合会 井上会長代理・安島・清藤・齋藤の各理事原事務長出張	9月15日 京都府支部総会・井上会長代理・長岡理事出張	9月16日 日歯役員・代議員懇談会	9月18日 静岡県支部会員一日入学会	9月19日 四国地区支部連合会 井上会長代理・清藤・齋藤両理事出張	9月20日 日曜セミナー(放射線)	9月20日 神奈川県歯科医師会 二十周年記念安島理事出張	9月22日 会計監査・常任理事会	9月26日 千葉県支部総会井上会長代理・齋藤理事出張	◇栄誉 藍綬褒章受章 齋藤 静三	◇地区理事決定 近畿地区 12 長坂 健一	◇支部長交替 熊本県支部 13 松本 謙一 北信支部 17.9 青木 富士弥	◇新入会員 前田 勇 福井県	逝去会員のお知らせは次号でいたします。
---	--------------------------------	----------------------	-----------------------	---	----------------------	------------------------------------	---------------------	-------------------------------	---------------------	--------------------------	--	-------------------	---------------------

故南部実教授大学葬 厳肅盛大裡にとり行なわる

故南部実教授の大学葬は、葬儀委員長に石河幹武理事長、副委員長に杉山不二学長、井上真同窓会長代理があたられ、去る九月三十日、午後一時より、市川進學課程講堂に於いて、しめやかなうちに、盛大にとり行なわれた。

葬儀委員長の挨拶のあと、二時十分より同所において告別式が行なわれた。故南部教授に最後の別れを告げる人の列はあとをたたず故教授の人格がいまさらにはげられる葬儀であった。

大学、同窓会、同窓会、父兄会、卒業生、謡曲部その他の方々より贈られた生花にうずまいた祭壇の中央に故南部教授の遺影が飾られた式場には、ご遺族、ご親戚はもとより大学教授職員、学生、同窓が多数参列し、なかには北海道より急ぎかけつけた卒業生の顔もみられた。

故南部教授は、高知県に大正十三年に生まれ、第二高等学校を経て東京帝国大学理学部動物学科に入学、昭和二十二年九月同大学を卒業された。翌二十三年三月東京歯科大学予科(旧制)の教授に就任され、昭和三十四年四月進學課程(新制)教授に、以来今日まで二十二年間、生物学を担当され、多くの学生の教育指導に専念されてきた。

葬儀は神式により定刻に始められた。神官の祭詞奏上、葬儀委員長、神官の祭詞奏上、葬儀委員長、友人代表、卒業生代表、在学生代表より、それぞれ故人の徳をたたえ、急逝をいたむ切切たる弔辞が述べられ、参列者の胸を強く打つものがあつた。ついで、故教授の趣味であつた謡曲の一節が、謡曲部員によって悲しくも高らかにうたいあげられた。弔電披露の後、代表者より玉串を奉典し、撤饌の儀をもって大学葬は終了した。

大学の命により、本年八月十二日羽田を出発、アフリカ、ヨーロッパの視察をおえ、九月十日元気に帰国された。ところが十二日に発熱、四十度もの熱が三日間も続き、十六日に榊島病院に入院されたが、医師の懸命の努力にも拘らず、十九日早朝急逝された。四十六才。急性肝炎の疑いとのことである。故南部教授は生物学とりわけ、動物の内分泌学について造詣が深く「脊椎動物の産卵機構」を



テーマとして、ラッテ、メダカを研究材料として着々研究が進んでいたとのことである。先生はまた、常に学生のよき理解者として学生の尊敬を集めておられ、クラス主任、謡曲部々長、幹事をされて大学ならびに学生のため力を尽されたのである。ご遺族は、美和子夫人と大学受験準備中の長男、高校一年の長女、小学校四年の次女の四人である。これからという時の急逝は、おしみても余りあるものがある。ここにつつしんで御冥福をお祈りするしだいである。

去りし小西学兄の事ども

十年会 久保田 正 一

今日の葬儀は、横浜市会議員、歯科医師会、消防団、及び民社党神奈川支部の主催する合同葬であつたので数多の市民の方々が参列された事は申すまでもない。生前彼の徳行を物語っている。彼は学生時代から人情味に富み、人々には常に特別親切に世話をした。苦学した経験があるので、貧乏な人、弱者に味方をするのがきだつた。従つて彼をしたう人々も多かつた。弁論が素晴らしい上手だったので、名弁論部長もやつた。卒業と同時に級友鈴木録二兄の御世話で横浜に住む事になつてから爾來四十数年になるだろう。彼を支持する大衆に従つて、市会議員に選挙され、今日まで当選六回、都合二十四年間、市民のために徹底的に働いた。現職の飛鳥田市長はじめ、要職の方から庶民にいたるまで、畏敬やまざる多数の市民が会葬されたことは、彼の功德、積善及び世話好きの善行を物語っている。勿論、花輪、生花等も数百台を教え、彼の盛徳を功に表していた。彼の脳中には市会のことや人事のことで、時に減私奉公己を捨てて居られた時もあった様だ。この度の交通事故も、混雑する自動車の流れを縫つて、横断して

いたセツナ、単車が横から飛出して事故を起したらしい。かけよつた人々に対して身をおこしながし、そのままだま意識をうしない、神奈川医大へとはこぼれた。彼の気持は、僕も悪かつたのですと表現し、事故を起した青年の顔をさがした様に思われる。彼のはこぼれた病院は、彼の尽力で建てられたもので、手厚い看護もむなしく七十二年の生涯をとじた。おしい人を無くしたものだ、惜しい哉。奥様の為に、御子様のために否広く社会の為に今しばらく生きて呉ればと、彼に期待する知友の多くあることは彼の生前の遺徳と思われ。此等の人々の住む町内で、血を流し、肉体は近くの久保山で、毘にふせられ、その煙は横浜の空を覆い、御骨は市を見下す久保山に埋葬されるので、彼の魂もさぞかし満足されることでしょう。今年の十年会の熱海南明ホテル総会は彼の被勲の祝賀をかねての大盛会だったが、約二カ月後世界されたことは返す返すも惜しいことである。小西憲作君が入院中に柴太郎君も他界された事の通知があり、この秋は淋しさが一入増して来る。

合釘継続歯の除去法について

太田 是 男

合釘継続歯の除去は、これを作製する以上に困難を伴うことが多い。前準備としてX線写真撮影をおこない歯根の長さ、骨の状態、合釘の長さ、太さ、形などを確認する必要がある。また継続歯の歯冠部が残っているか否か、根面板の有無、さらに根面の齶蝕の有無などによって使用する鉗子や除去の方法が異なってくる。



図1

金属裏装継続歯の症例においては(図1)、まず唇側歯頸部の人工歯を楔状に削り、根面板を一部露出させる。根面板が比較的薄いときにはこれを根面から剝離する。根面板が厚く曲げることのできない場合には、小さめのラウンドパーで削去してもよい。舌側歯頸部は金属を削り、根面と裏装金属との間に楔状の空間を作る。この楔状の先端は必ず歯質と金属の接際部に向っていなければならない。根面に齶蝕のない症例においては、この状態で矢筈式抽出鉗子を用いて除去する。

根面に齶蝕がある場合には、軟化牙質を残したまま鉗子を使用すると、脱灰されていない部分の歯質が支点となり、歯根を破折することがあるので、軟化牙質を完全に除去し、凹凸のない平面にしてから鉗子を用いる。また歯頸部を楔状に削去せずに鉗子を用いることは歯根自体に鉗子をかける恐れがあり、歯質の破折を招くことになる。

除去に際しては合釘を回転させたり、引き抜くような力を絶対に加えてはならない。むしろ根面に押しつけるようにして鉗子を握りしめるだけでその目的を達する。もし患者が疼痛を訴えるときには歯牙を脱臼させる力が働いているものと考え、楔の方向や鉗子の方向を変える必要がある。そうした意味においてほとんどの症例において麻酔を施すべきではない。

矢筈式抽出鉗子は歯冠部と根面板が残存し、かつ根面

に齶蝕のない症例において有効であるが、根面の齶蝕が大きい症例や、根面板のない合釘継続歯にはあまり効果がない。このような症例においては人工歯および根面板を削去し合釘だけを残す。そして合釘の唇側および舌側の根面にできるだけ近い部分を楔状に削り、鉗子の保持部を形成する。保持の為に楔形は鉗子が滑らぬようにする為に、深くしかも鋭角に作る必要があるが、深く削りすぎて合釘が破折しないように注意しなければならない。



図2

兼松式除去鉗子(図2)は2本で1組となっており、小さい方の2号鉗子(図2の斜線部分)で合釘を保持し、根面と2号鉗子との間に楔となる大きい方の1号鉗子を入れて除去する。この鉗子は他の鉗子と比較して歯牙の破折を招くことが少く、除去の確率も高い。また隣在歯間のスペースがせまくてリットルジャイアントなどが使用できない症例においても有効である。

以上の他に合釘のみが残った症例においては三金製合釘除去鉗子が、根面板が残っている症例においてはリムーヴァーも使用できる。合釘が根面上に突出していない症例には、S. S. White社製合釘除去器が有効であると報告されているが、むしろ小さいラウンドパーやインパーテッドコンバーなどで削り取る方が得策である。また合釘が極端に長く、側面が平行でしかも太い場合には除去が不可能なので、根端部に異状がない場合には根面上の合釘を応用し、さらに維持の為にピンホールを形成してメタルコアを作製するなどの方策が必要となる。

いずれの症例においても、除去に際しては歯牙が破折する可能性があり、最悪の場合には抜歯となることもありうるということを患者に理解させた上で除去操作に入った方がよい。(補綴学教室)

局部床義歯と歯冠修復物支台歯との印象

—局部床義歯の浮き上りを防ぐ—

溝 上 隆 男

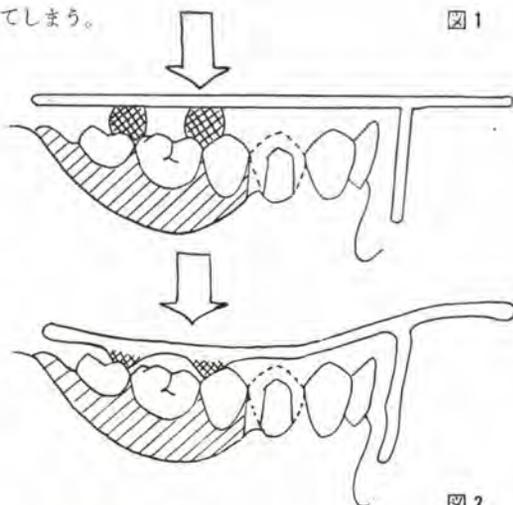
患者の口腔内には、種々な症状や状態が存在し、単一な領域からの処置では治療の目的を達成できない場合が多い。補綴的な処置に集約された口腔内においても、単独の歯冠修復物や架工義歯の範囲に属するものや局部床義歯をもって機能の回復をはからなければならない範囲に属するものが混在することが少なくない。これを咬合・咀嚼力の負担という面からみるならば、金冠や架工義歯のような歯根膜負担様式のもの、粘膜負担ないし粘膜と歯根膜との混合負担様式の局部床義歯との組み合わせというように負担様式が異なる補綴物の装着をしなければならぬ場合があるということになる。多数の欠如歯があり、咬合位が失なわれているような症例で、しかも歯冠修復を必要とする歯牙を残してこれを局部床義歯の維持歯ないしは鉤歯として活用しようとする場合がある。このような時には治療方針としてまず歯冠修復の処置から手がけてゆくのが普通である。

しかしながら、この歯冠修復を行なおうとする歯牙の根端部に病巣があってこの治療を要したり、患者の機能障害を早くなくすために不十分ではあるが、局部床義歯を先に装着しなくてはならない場合もある。このような症例においては、咬合位を局部床義歯で与えておいて後にこの咬合関係に調和させた歯冠修復物を装着するようになる。

さて後日、歯冠修復物の調製に着手し、支台歯形後に義歯を装着した状態で支台歯の印象採得を行なう段階に至って、装着されている局部床義歯が粘膜負担ないしは粘膜負担を含んだ負担様式をとるものであるところに問題が生じてくる。普通のように既製トレーを使用して印象採得を行なった場合には、義歯が浮き上がった作業用模型ができてしまうおそれがある。このような作業用模型で作られた歯冠修復物は患者の口腔内に装着された場合、軽く咬合させた状態で高いことがある。さらに、義歯の粘膜負担部に力が加わった場合は義歯が沈下してしまい歯冠修復歯のみが強く咬み合うことになり、結果的に咬合の高い歯冠修復物ができてしまうことになる。歯冠修復物の早期接触や過重負担はその歯牙の歯周組織に為害性をもたらすことは明らかである。

このような不都合な結果をまねきやすい印象採得時の義歯の浮き上りは、印象採得時に義歯床下に印象材が入り込むというりことにもある。しかし、義歯床下に印象材が入り込まない場合でも、単純な印象採得を行なった

場合には、義歯床による義歯床下の粘膜の加圧がほとんどなされていない状態（粘膜の上に義歯がそっとのっている状態）の時の支台歯と義歯との位置関係が印象されることになる。ところが口腔内の義歯の粘膜負担部は機能時には歯冠修復物よりも大きく沈下するために、歯冠修復物の方に早期接触や過重負担がおきてくる。結果的に義歯が浮き上がった模型で調製した場合と同じになってしまう。



日常の臨床でおこりやすいこのような不都合を避けるためには、口腔内に装着されている義歯を積極的に押しながらか印象採得を行なう必要がある。具体的な方法としては印象採得時にトレーの内面で義歯を加圧しながら支台歯の印象採得を行なうのがよい。図1は既製のトレーを使用して、義歯の人工歯とトレーの内面との間にモデリング・カンパウンドのような硬固物を介させて印象採得を行なうものである。図2はトレー用材料で各個トレーを作製する場合で、義歯の人工歯にトレー内面を接触させたものを作っておく方法である。このようなトレーで義歯を加圧しながら支台歯の印象採得を行なうことによって正しい作業用模型を得ることができる。この義歯を加圧しながら行なう印象採得は、粘膜負担部を有する義歯が装着されている口腔内に歯冠修復物や歯根膜負担様式の義歯を調製するような状態が生じた時にも応用されなければならない。また処置歯の対顎に粘膜負担の要素を含む義歯がある場合の対合模型のための印象採得時にも応用して効果をあげることができる。

(補綴学教室 講師)

四国連合同窓会
第二回総会

本年度総会は九月十九日(土)愛媛県松山市奥道後『日月荘』にて開催された。早朝降雨激しく関係者を心配させたが、その後回復に向い一同をほっとさせた。総会出席の学校代表米沢和一教授は前夜新居浜に一泊、佐藤、松木、藤沢等がお伴して正午松山に着。ついで同窓会長代理井上真副会長、渉外部長清藤志郎理事、斎藤静三鹿島後援会長は元気な姿で松山空港へ降り立たれ、二時鹿島俊雄参議院議員も多忙な日程にも拘らず至極元気で到着された。

愈々定刻四時、相会する者七十二名。総会は先ず佐藤愛媛県支部長の挨拶、正岡愛媛県歯科医師会々長の挨拶に始まり、井上副会長から台風見舞及び福島会長、大井副会長の病状並びに理事会決定事項その他、また清藤理事から松本歯科大学設立の沿革及び同窓会としての態勢について、夫々報告があった。つづいて学校代表米沢教授から来る十一月八日挙行



される母校創立八十周年記念式典と祝宴並びに血闘守之助先生生誕百年記念の行事と事業の内容、来年度入試要項、研究室状況等につき参考資料を配布された上詳細な報告があった。鹿島参議院議員より院内活動の概況及び当選以来の同窓の支援に対する感謝並びに今後一層のご協力を戴く様懇請された。ついで斎藤後援会長よりは、当選以来の活躍状況及び、同窓生の家族ぐるみの協力方を願うするとの挨拶があった。すかさず四国地区同窓生連合会から鹿島議員に対し全力を挙げて後援するむねの力強い挨拶があり全員の熱烈な拍手をうけた。

協議事項に移り、横矢高知県支部長より来年度開催としての抱負を、猪ノ子徳島支部長や平田香川支部長より夫々関係事項の報告並びに挨拶があった。会は終始熱心に進められ予定時刻を遙かに越え、六時半無事終了。記念撮影の後直ちに懇親会に入る。西村一雄先生の音頭で母校並びに同窓会の一層の発展と鹿島議員の一層の発展を祈念し乾杯。一同久闊を謝し、先輩、後輩肩を叩き乍ら杯を挙げて今昔を語り、水道橋ならではの懇親風景を展開した。又宴半ばにゴルフ大会の授賞も行なわれた。夜の更けるのも忘れての盛会であった。

来賓一行は風光明媚で豪華な奥道後ホテルに一泊された。翌三十日朝松山空港発全日空機にて夫々帰途につかれた。(松木記)

サッカーOB会

恒例の会は、今回は、大沢一博先生、父君大沢一康先生のおほねをりにより、先生の地元御前崎にて、九月十二、十三日に開かれ、舟盛料理に舌づつみをうち、肥満体をさすりながら、昔のブレーの自慢話に花を咲かせました。サッカーOB部会も年々新入会員を迎へ、すでに五十名に達しました。歯科医学専門学校当時は二部で活躍されていたと聞いておりますが、現在は六部にランクされております。その当時のOB会員の諸先輩御一報下さい。参加者、佐々木次郎(36)、石川恭(37)、白岩良一(38)、高橋正義(39)、大沢一博(40)、佐藤靖(41)、荒川明(42)、大曾根洋(42)、榎本洋史(42)中田金一(44)、椎木一雄(44)、関塚和夫(49)、安達康(49)、榎阪敏(49)、本年度役員は、前年度より引きつぎです。

- 会長 中島 巖(30)
- 部長 佐々木次郎(36)
- 監督 椎木 一雄(49)
- 幹事 佐藤 靖(40)
- (中野区沼袋2-31-12)

メ ト コ ー ル
メ ト コ ー ル
メ ト コ ー ル

メ ト コ ー ル
メ ト コ ー ル
メ ト コ ー ル

感染根管、抜髄根管の消
毒・鎮痛・消炎にすぐれ
た効果を発揮します

包装：10ml

METHOCOL
METHOCOL
METHOCOL

METHOCOL
METHOCOL
METHOCOL

東京都渋谷区広尾3-1-3
ネオ製薬工業株式会社

◆文献郵呈◆

クラス会だより

十年会

大正十四年卒

大正十年から大正十五年頃に、学友だった旧友が毎年総会を開いて旧交を温めている。また、寄稿や便りを会報として出して、次回の総会を待っている。来年は岡山石津純一君の御世話で岡山を中心に、各地から集まる。旧友の無事なほほえみを期待している。今年五月には、鈴木録二、白須賀次郎、石原文海の諸兄により東京、箱根を中心に観光を兼ねた総会であった。高輪泉岳寺に隣接する高山歯科医院跡をたずね、現在の母校の発展と我々の幸福を祈った。それから中村歌六追善興行を観賞し、俳優部屋及び奈落を見学。舞台の上と下の差が吾人の一生を連想した。我々のバスは華かな東京都内を眼下に視て、高速度道路を河口湖畔へと進んだ。河口湖畔の富士レックホテルの夜は昭和三十三年当地で開催した十八名の顔を思い出す。湖畔の夜は静かだったが友の顔、ねごと、いびきも翌朝まで笑いのたねとなった。朝の湖畔は富士の英峰をうかべた。五合目の景色は昔かわらぬ雄大さではあるが、土産物の買店が数軒

出来、体力と気力で登った往事を思い出した。再び湖畔で昼食中に今回初出席の安田泰治君が見えない、今一度五合目まで探しに行き、下界の風物や世の变りに心をうばわれた安田君をつれもどした。富士五湖を尋ねて夕刻、熱海のホテルに落ちついた。小西憲作君の紋敷の祝を兼ねて懇親会あり。一夜宿は、熱海の町の燈火が消えることなく我々の旧友の心燃した。翌日は雨のため箱根行を断念し、真鶴の佐藤泰三君の案内で真鶴海岸を見物。河野一郎宅にて昼食をとり、東名高速度道路を経て東京都内の高層ビルで乱立する間を縫って近代都市のおも影を忍びつ椿山荘で解散した。(久保田)

更始会

昭和三年卒

会員の皆様御元氣にお過しのことと存じます。本年度の四国総会は前号にて御報せいたしました。常連の片岡君は病氣を秘めて参加され帰省早々直腸手術のため警友病院に入院され一カ月後元氣に退院されました。只今静養中です。お喜び申し上げます。総会にて決

(一) 十一月毎校創立八十周年記念祭に於ける箱根クラス会は参加者三十余名となり左記の通り開催いたします。十一月七日(土)箱根小涌園ホテル、宴会六時より。

会費六、〇〇〇円(現地集合現地解散)

(二) 来年二月(三泊四日)台湾にてクラス会を開催いたします。只今台中の張君、嘉義の蘇君に連絡中です。多数御参加下さい。十月中に御連絡いたします。

(三) 来年度の五月総会は山陰より山陽方面となりましたので松尾、角、竹田、湯浅、浅野の諸君に宜敷くお願いいたします。幹事 千野、山路、清水

十四会

昭和四年卒

十四会の今年の総会は万事、母校八十周年記念行事に歩調を合せて行ないたいと考えている。従って当日の総会はいつもの様な進行はされないと考えられる。椿山荘に集って席をつらねて学校の宴席の進行に合せる事になると思われる。席を連ねると云う事が大切なので会場で合ったらお互いに連絡し合う様に心がけて下さい。皆さんと顔を揃えて旧友との懇談の出来る会にしたいと考えている。そ

の席で来年の総会を何処で何月頃開くかを決めて置いて準備にかかりたいと考えているので良い案を持ちよってほしい。十四会も四十年を過ぎた。いろいろと総会への要望も変って来た年頃になっていと思う、何かと注文をつけてもらえるともやり良い。毎年の総会通知に返事を呉れない会員はその労力と費用の無駄を知ってほしい。諸君の近況を皆んな知りたがっている。貴下の近況は出席者に回覧されてそれから又話しが湧いてあなたの無事をそして自分達の健康を喜び合っている事を忘れない様に願う。去る七月十一日と十二日想い出多い伊香保温泉に公害を避け学窓時代からのあれこれを話し合う会を計画して母校の記念行事もあるので東京を中心とした近県の各位に案内して集りを更に意義深い会にする為に日歯政連の副会長に就任し鹿島選挙に東奔西走している群馬の斎藤義一君と茨城県歯科医師会の会長に再選され、また日歯政連理事に就任した堤安君を激励する会とし尚前日歯常務理事、東都歯会の常任理事として公衆衛生方面を担当して、歯科界に大きな業績を残して退任された、上野の遠藤壮三郎君に感謝する会を併せ三君の今後の活躍を祈念する事として群馬の山口秀君、森下四郎君の御骨折りで伊香保小暮旅館に集った。その会合の次第は前回の会報で写真をつけて報告して置きましたので御覽願った事と思う。本日に楽しい一泊二日間だった。会員消息。大阪の生駒慧君が八月三日朝五時入院加療中薬石効なく死去された。病名は骨肉腫、心から哀悼の意を捧げる。卒業以来折り返し姿を見せてくれた君が三、四年前から神経痛で腰が痛く療養をしていると便りがあったが彼が不帰の客になるとは考えてもいなかった。御子息の電話による入院したが病状が悪化していて手術も不可能だったとの事、心から彼の冥福を祈ってやまない。今年も一人の同期生を失い、あすの日の自分を考えると心細くなる。彼の大阪での歯科医歴については詳らかでないが開業医として患者の信頼を集め華やかな開業であった。御遺族の今後の健康と発展を祈り合掌する。

手紙をもらった。心から彼の冥福を祈る気持で一杯である。謹んで御報告申し上げて、各位の自愛を祈つてやまない。

母校の記念式典には元氣な姿で逢える事を楽しみにして待つ。

高橋 記

三 辰 会

昭和七年卒

総会と案内

恒例のように同窓会総会当日、十一月八日(日)椿山荘での宴会に引き続き、同園の喫茶室に於いて、七時から三辰会総会を開催致します。八十周年の祝賀会には挙つて参加、出席されますように。八十周年祝賀の祝宴は椿山荘で午後五時開宴ですから、三辰会の方は茶菓程度に致します。七時〜九時の間を予定しております。会費三百円。

昭 久 会

昭和十三年卒

十三年前の思い出多き関西に、世界的行事万博を見る会を、再度広谷のリーダーで盛大に行なわれた事に感謝する意義を感じたの時頃旅館に着く。先発幹事が待ち

で、拙文をよせる事を御許ししこ

雨男小生の為か又々小雨降る神戸駅前、定刻すれすれに駆け込めばすでに全員集合。卒業後初めての顔もあり唯々年齢をつづく感じるも、話となれば昔と変らぬ話題気だけは若い若い。

天気案じながら張り切りボーイ広谷の一年前から安達直東京幹事を現地に呼びよせての企画に、二日間のレクリエーション如何にと期待に胸ふくらませて観光バスに乗車。新婚気取りのアベック、又は古女房は相手にせずと無理な見えをきつて単独者グループへ、女は女同士と思ひ思いに席を取る。定刻よりややおくれで発車、ガイドの説明も上の空、雑談に花が咲く。雨のため湊川神社、ポータワーは下車せざるに失礼。花時計、官庁街とバスは進み貿易センターで下車。たっぷり一時間、高所からお茶を飲んだりしゃべったりして雨雲けむる港町見物。再度バスに乗車、新装なった港町大橋を渡つて一路六甲へ、

新緑と白い花の咲く木の間を標高千メートルを一緒に登り展望台に停車するも雨の為眺望きかず寒風身に沁みるのみ、早々に出発五時に感謝する意義を感じたの時頃旅館に着く。先発幹事が待ち

クラス会だより

受けて肝入りの西陣織財布と交換に会費徴集の関所づくり。支払、室割りと一時広いロビーも大混雑。何とか整理もついで部屋に入る。さすがの旅館も万博ブームで室取りが思うにまかせず単独組の部屋がアベック組と数段の差、怒る事怒る事口惜しかったらアベックでおいで!!

六時半大広間に参集、記念写真と云うに数人の参集なく連絡に大童、冗談続出。熊谷司会で物故会員に対し黙祷を捧げ広谷の挨拶を皮切りに各地区幹事が各々の近況報告、次回は名古屋と確定、宴芸に入る。遊興人生の表裏を知りつくしたかと思う芸達者がひきいるタクおどり、日な先生待望のストリップ、若い女性は早々に退席。酒も廻つて奥様にあやまりながらストリップの着衣取りに酒の味も一段とよくなり下戸には気の毒の至り。各地区代表のかくし芸披露に宴ますます盛、はじめて出席の会員や夫人達の自己紹介の時間が無くなったのは一寸淋しかった。宴後男性、女性と別室に集り夜の更けるのも忘れて談合、昭久会健在なりの感一入。

翌日はうって変つて晴天。七時半朝食、次期会合についてしばし討論、片や東京幹事の年会費徴収ゴツゴツ数年分を納入した者数人会計一息つくならん。

八時バス乗車、思いがけぬ温着

せんべいを大阪幹事のやりくりで弁当と共に頂く。万博見物には少々荷になるが……

途中天気にも恵れ蓬莱駅のよき眺望に下手な八ミリが方々で廻転、宝塚を右に見て少し道路混雑あるも予定の如く進む。多忙人士数人別れを惜しんで途中下車、待望の万博の建造物望見しはじめる道路頗るよし、北口駐車場下車、混雑なかなか。案内人を見失うまいと従って行く。又記念写真、ぞろぞろと北口に向うゲートに入る。人波にもまれ一同何となく解散、いつもの解散の淋しさ無しこれも又よきかな。

思い思いのパビリオンに向う。さすがは大方博中でクラスメートの誰彼と顔を合わす事殆どなし。十三年前の二十周年には小生終始広谷に引きずられ、あの様な昭久会開びやく以来の盛会、又々今日の盛会と全く広谷の熱意には頭が下る。同時に関西会員のこの一年間の準備御苦労の程、とても筆舌につくしがたかつただ深く感謝あるのみ。

この間実に十五名の物故会員をみるは、小生の如く手術を受けての片わ者には何とも云えぬ思い出である。前に賓客だった福島前学長は病床にあり、会員の中にも胃だ、心臓だ、糖尿だと身体の異常を訴える人にもあり是非是非御自愛いつの旅行にも元氣な顔を見せ

て頂きたいものである。最後に筆をおくにあたり東京支部長の席のみ汚し何も出来ず下番する事を御許し願う。

今回の出席者名を記し再度関西各位に深甚の謝意を捧げ諸兄ならびに御家族のご健祥を祈る。(文責安達直)

なお同窓会総会の前夜(十一月七日)クラス会総会を開きますが、改めて御通知申し上げます。

一 志 会

昭和十七年卒

七月二十四日、二十五日、二十六日の三日間、大阪の級友片山、大塚、大西君らの御世話で万博見物クラス会が開催されました。集うも会員三十二名、同伴家族を含め総勢六十五名、二十四日大阪びわこホテルに参集、夜の万博見物に始まり、翌一日も見物、当夜宝塚温泉水明館に一泊しました。

当夜は会員、家族一同で楽しい宴を催し、旧交を温めました。幹事御一同の緻密な計画、細かるところまで行き届いた御世話で楽しい三日間を過ごしました。

兵庫県から西村隆、難波、赤沢の諸君が手伝いに来てくれました。御世話いただいた右級友諸君には心よりお礼申し上げます。この詳細は「一志会だより」に掲載

クラス会だより



宝亭において午後六時より総会を開催いたします。役員改選がありますのでぜひ御出席下さい。御同伴を歓迎いたします。
(長谷川記)

十六会

昭和十九年卒

会員諸兄、夏も過ぎ毎日御元氣にて御活躍の事誠に喜ばしい次第です。

去る八月二十九日(土)、十六会総会(昭和四十五年度)が箕面觀光ホテル(大阪府箕面市)にて、多数会員御出席のうちに誠に盛大に行なわれました。種々御準備に御骨折りました。種々世話人の片山、伊黒、朝隈、大村、梅津、元津、三浦、工藤の諸先生には誌上を拝借して厚く幹事一同御礼申し上げます。

◎総会の記

- 一、飯田幹事長の挨拶
- 一、坂本会計幹事の会計報告
- 一、横山幹事の庶務報告
- 一、幹事選出

飯田精一、金沢滋、城所進、佐貫武雄、坂本吉盛

いたします。
四十五年度クラス総会のお知らせ。
十一月七日(土) 外神田明神下



って下さった事の謝辞を申し上げます。

新幹事

鈴木貞夫、福本 忍、田中俊三
御多用中とは存じますが三先生に御願い申し上げます。

- 一、記念撮影(家族と共に)
- 一、懇親会

本人三十九人、家族三十二人片山、児玉両君の司会にてあつという間に時間が経ち、二十何年振りに出席した会員。はるばる九州から佐藤曄君出席、北海道からは残念乍ら誰の顔も見られませんでした。

参加者は、写真後列左より、小

宮山、伊黒、大村(林木)、三浦、石井、石塚、坂、小寺、佐藤、大村(春)、児玉、森岡、勝田、朝隈、森田、佐藤夫人、工藤、佐藤次女、白井、田中夫人、西条、その前列左より、西条夫人、西条長女、村田、後藤、本山、金子、栗原、元津、西条長男、片山、前列より二列目左より、西条次男、三浦長女、三浦夫人、大村夫人、泉川、我妻、鈴木、福本、横山、有馬、飯田、坂本、田中、堀江、山根、浅井、藤原、飯田長男、前列左より、三浦長男、児玉夫人、有馬夫人、有馬母堂、有馬長男、福本長男、福本次男、福本三男、山根次女、飯田夫人、飯田長女、坂本夫人、堀江夫人、福本夫人、坂本長女、坂本次男、栗原長女、栗原長男の他に、写真には写らなかつた

が藤井、村田夫人、山根夫人、山根長女の参加を加えて、会員三十九名、家族三十二名の多勢であつた。

◎昭和四十六年度の総会の記
八月二十九日(土)の総会の席上にて出席された諸兄の絶大なる御希望により左記のように決定しました。

記
昭和四十六年十月頃
とき 四国
世話人 四国在住会員後藤、西条山口の諸先生宜しくお願ひします。

◎母校創立八十周年記念十六会懇親会開催の記
とき 十一月七日(土)
午後六時(予定)

◎東京内(詳細は後日連絡)
総会の席上で会員諸兄より多数の御希望がありましたので開催を決定しました。御上京の諸兄多数収容出来ませう『ホテル』を準備中です。詳細は後日御連絡します。東京在住の諸兄も出来るだけ一泊して、久しぶり多数の友と語りあつていただくよう幹事一同希望して居ります。

では後日御連絡の郵便物をお楽しみに。
最後に住所、電話番号、住居地番変更のあつた方は、
東京都目黒区上目黒四一二十一

9

三 白井 千恵
電話 東京(〇三)一七一二一四〇
七四
至急連絡して下さい。(白井記)

いづみ会

昭和二十三年卒

会員諸兄にはますますお元気に
活躍のことと思います。

さて今秋は母校創立八十周年記
念行事が盛大に挙行されますの
で、わがいづみ会でもそれに参
加の方の便宜を考えて、既にご案
内の如く第二十三回総会を東京で
開催いたします。何とぞご万障お
くりあわせの上、ご出席下さいま
すようお願いいたします。なお行事日
程を念のため書き添えます。
〇十一月七日(土) 午後六時
母校集合

〇夜の東京探訪 デラックスはと
バスをチャーター、まず赤坂の
キャバレー・ミカドで観シヨウ
さらに帝國ホテル・シアタレス
トランで食事と観劇

久喜会

昭和三十六年卒

久喜会A組のクラス会を去る八

クラス会だより

月二十二日から、二十四日にか
け、北海道で開催致しました。
遠路にも拘らず、会員二十三
名、家族同伴者九名で、札幌夜の
観光。登別の北海太鼓と大浴場。
白老のアイヌ部落。支笏湖を二泊
三日、貸切バスで観光し、途中ゴ
ルフをする方々もあり久しく近況



を語り合い、幼稚園、小学生の息
子、娘を早くも売り込んで旧交を
温めました。
なお、欠席の方々から御寄附い

ただき、出席の方と同じ小樽焼き
の陶器をお送りして感謝の意を表
しました。

食べ物では、馬鈴薯、とうきび
は勿論のこと、道産のメロンが事
のほか好評を博し、バスの中でお
かわりのさいそくが出て、幹事は
計算外の嬉しい悲鳴をあげまし
た。

欠席者にも記念写真を送りました。
来年の那須での再会を約して
(幹事 築瀬・柄瀬) 支笏湖でお
別れのチップ昼食会、千歳空港経
由札幌駅解散となりましたが、そ
の後各自で道内観光された方々も
あり、楽しい今年の夏休みでし
た。(唐橋記)

踏志会

昭和四十一年卒

万国博終了の九月十二日(土)十
三日(日)の二日間、岐阜長良川温
泉金華山麓のホテルパークミナと
館にて開催されました。

第一回目的の東京、次いで熱海、
日光、修善寺に続いて第五回踏志
会は東海地区が幹事担当となり、
現在名城大学理工学部在職され
ている嶺脇四郎先生をお迎えしま
した。第一日目は奥山・川村・藤
井の三君が同館に前泊し、当地の
岡・酒井君と共に早朝ゴルフコン
ペを行なった。関カントリークラ
ブで日頃の腕をふるい岡君が優勝

をした。夕刻出席者全員は鵜飼船
に分乗し芸妓を集め宴会を行なっ
た。川面にきらめく火花を見、盆
踊りを眺め、鵜匠の手綱もあざや



かにひとときの鵜飼を楽しんだ。
下船後は各自思い思いに柳が瀬
の町、金華山ロープウェイ等へ自
由行動。第二日目は朝食後総会を
行ない事務報告会計報告の後、本
年結婚をした人への金盃の授与を
嶺脇先生にしていた。川原
で記念撮影後、冷房貸切バスで約
半数の人が日本ライン下り、明治
村観光へと出かけた。日本ライン
下りでは約一時間貸切船で爽快な
流れと風光を味わった。

午後四時に名古屋駅新幹線側で
解散をした。クラス会の前夜を通
じて愛知学院大学歯学部への見学
もあり有意義であった。(阿部記)
出席者、嶺脇四郎先生、黒田光
焯、対馬具海、石内可城、山口英
男、武田洋一、田中秀穂、八百枝
勝、河村富次、山田祐宏、丸田五
十三、山本芳隆、篠沢宏、藍原繁
樹、藤城彰人、西尾義房、岡英治
水谷玄、城所繁、酒井優、武藤章
美、田中令子、高木瑞穂、安田以
久、川村一、奥平秀子、村木正
藤井康博、白田威、安藤彰彦、早
稲田正紀、山田紀夫、角田達彦、
勝井健介、宇美房英、高橋捷治、
奥山誠、阿部本晴、中山一六、藤
城鉄英、小川敏彦、田中紀夫、朝
浪惣一郎、神谷文彦、柴山謹一郎
稲川英史。

発行所 東京都千代田区三崎町二丁目九番十八号
東京歯科大学同窓会
電話東京(二六)三三三三(代) 振替七六九〇四番
編集兼発行人 渡辺富士夫